



安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

目次

- 蜂刺されに気をつけてください！
- SC 団体傷害保険にかかる事故状況など
- 事故報告 速報（令和 8 年 6 月分）
- 令和 7 年度 都道府県別 損害賠償責任保険事故状況
- 草刈り作業中の飛び石、対策をしていますか？
- 草刈り作業安全啓発動画のご案内／ 編集後記

蜂刺されに気をつけてください！

【注意】7 月～10 月は蜂の活動期です！蜂刺され事故に注意

令和 7 年度には、「蜂・犬・蛇等に刺され、噛まれた」事故が **1,130 件**（令和 6 年度 931 件）発生しており、年々増加しています。また、近年は蜂刺されによる死亡事故も発生しており、決して軽視できない災害です。蜂刺されでは、体質によってはアナフィラキシーショックを起こし、短時間で命に関わることがあります。（P3、4 参照）

蜂が生息している可能性のある場所では、次の事項を必ず守ってください。

- 作業開始前に、周囲や樹木、植込み、軒下などに蜂の巣の有無や蜂の飛来状況を必ず確認する。
- 蜂用殺虫スプレーを常時携帯し、万一来るに備える。
- 黒色の服装は避け、長袖・長ズボン・手袋・帽子を着用し、皮膚の露出をできる限り少なくする。
- 香水、ヘアスプレー、整髪料など強い香りのあるものは使用しない。
- ジュースやスポーツドリンクなど甘い飲み物の匂いにも蜂が寄ってくることもあるため、飲みかけの容器を放置しないなど十分注意する。

蜂を見つけても慌てて追い払ったり、大声を出したりせず、静かにその場を離れましょう。刺された場合は、速やかに作業を中止し、体調に異変（息苦しさ、全身のじんましん、めまい、吐き気など）が現れたときは、**ためらわず 119 番通報**してください。アナフィラキシーは刺傷後 30 分以内に急速に進行することがあります。

【過去の蜂刺されによる死亡事故事例】

令和 7 年 7 月 植木・樹木の剪定等

ツツジ内のカヤ除去作業中、会員が蜂に刺され、ポイズンリムーバーで吸引処置を実施。腫れもなく本人も「大丈夫」と話したため、休憩後に作業を再開したが、体調不良を訴えたため木陰で休憩した。作業終了時、班長が救急搬送を勧めたが本人は辞退し、センターへ軽トラック返却のため向かった。心配した班長が後を追いつき、職員とともに駐車場を確認したところ、自家用車内で痙攣している会員を発見。直ちに救急車を要請したが、搬送後に死亡が確認された。死因は蜂刺されが主な要因と診断された。

令和 5 年 8 月 除草作業

5 名で草刈り作業中、ツツジの根元からスズメバチの大群が飛び立ち当該会員の左手甲を刺した。持参していた蜂の殺虫スプレーを噴射したが、大群であったため、一旦避難した。救急車を呼ぼうとしたが、当該会員が「自分は何度も刺されたことがある」と断ったため、様子を見守っていたが、10 分程たってから顔色が悪くなり、意識がなくなったことから救急車を要請。医療機関に搬送されたが、亡くなられた。



蜂に刺された時の症状と応急処置

【**症状**】 蜂に刺された時の症状には、刺された場所の周りだけに現れる局所症状と、体内にでる全身症状とがあるので、症状をよく観察し、直ちに緊急処置を行うこと。

＜局所症状＞・刺された箇所を中心に大きく赤い腫れ、痛み、かゆみが出る。

＜全身症状＞・刺された箇所だけでなく、体中に症状があらわれる。

軽傷：顔や体が飲酒したように赤くなる、全身のかゆみ、**なんとなくだるい、苦しい** ㊦ポイント

※「なんとなくだるい」「苦しい」は、アナフィラキシーショックの始まりである可能性があります。この段階で必ず作業を中止し、**安静にしてください**。「少し休めば治る」と考えてはいけません。119番通報を

中傷：喉が詰ったような感じや胸苦しさを感ずる。口の渇き、腹痛、下痢、嘔吐、頭痛、めまい

※このような症状が現れたら、**直ちに119番通報してください**。

重症：意識がもうろうとする。さらに悪化すると、痙攣、意識消失、血圧の低下がみられる。

※命に関わります！アナフィラキシーショックを起こし死亡することがある。※ショック症状が現れる時間が短いほど危険性が高い。

【応急処置】

- 蜂から離れ、安全な場所へ避難する。
- 毒針が残っていたら速やかに取り除き、毒吸引器（ポイズンリムーバー）等で毒を絞り出す。
- 患部を流水や冷水で冷やし、毒が回るのを抑制する。
- 赤く腫れ始めたら、抗ヒスタミン軟膏を塗る。

＜少しでも体調がわるくなったら＞

迷わず「119番」通報！の連絡を行い、一刻も早く医師の手当てを受ける。

▶①**安静に搬送する**

②仰向けに寝かせ、衣服やベルトを緩め楽にする

③頭を低くし、吐き気がある場合は横向きにする

※患者を搬送する時は、決して背負わず、担架で救急車まで搬送します。

刺された直後に目立った症状がない場合も、処置をして安静にし、医師の診療を受けてください。時間が経つにつれて症状が悪化する場合があります。また、作業を続行し、動くことで毒の周りが早くなります。

＜命を守るための合言葉＞

「**なんとなくだるい**」は救急車を呼ぶサイン

「**少し休めば大丈夫**」は最も危険な自己判断

「**本人が大丈夫**」と言っても、周りが止める勇気を。

蜂刺されによる死亡事故の多くは、初期症状を軽く考え、作業を続けたことが重症化につながっています。

本人も仲間も「**なんとなく様子がおかしい**」という小さな異変を見逃さず、「**命を最優先**」に行動してください。

シルバー人材センター団体傷害保険にかかる事故状況

事故件数全体は令和7年度に増加へ転じましたが、その主な要因は蜂・犬・蛇に刺され・噛まれ事故の急増です。一方で、墜落・転落事故は3年連続で減少しており、これまでの高所作業に対する安全対策が一定の成果を上げていることがうかがえますが、重篤事故や死亡事故は依然として発生している状況です。

しかし、事故全体の約65%は「転倒」「蜂・犬・蛇に刺され、噛まれ」「墜落・転落」の3類型が占めており、これらへの重点的な対策が事故削減の鍵となります。また、草刈・剪定作業に起因する事故（蜂刺され、飛来・落下、切れ・こすれ等）が依然として多いことから、作業前のリスクアセスメント、安全保護具の着用、作業方法の見直しなどを総合的に進めることが、安全就業の推進に最も効果的であると考えられます。

事故の型	5年度				6年度				7年度				3カ年合計			
	就業・途上別（実数）				就業・途上別（実数）				就業・途上別（実数）				就業・途上別（実数）			
	就業中	途上	計	比率	就業中	途上	計	比率	就業中	途上	計	比率	就業中	途上	計	比率
墜落・転落	538	16	554	11.7%	514	16	530	11.3%	505	16	521	10.5%	1,557	48	1,605	11.2%
転倒	1,148	378	1,526	32.1%	1,188	420	1,608	34.4%	1,192	391	1,583	32.0%	3,528	1,189	4,717	32.8%
激突・衝突	104	21	125	2.6%	103	22	125	2.7%	105	25	130	2.6%	312	68	380	2.6%
飛来・落下	170	3	173	3.6%	159	3	162	3.5%	186	1	187	3.8%	515	7	522	3.6%
崩壊・倒壊	2	0	2	0.0%	3	0	3	0.1%	5	0	5	0.1%	10	0	10	0.1%
激突・衝突され	27	19	46	1.0%	20	16	36	0.8%	30	13	43	0.9%	77	48	125	0.9%
挟まれ・巻きこまれ	100	4	104	2.2%	123	2	125	2.7%	91	4	95	1.9%	314	10	324	2.3%
切れ・こすれ	413	2	415	8.7%	378	2	380	8.1%	420	0	420	8.5%	1,211	4	1,215	8.5%
踏抜き・刺し	14	0	14	0.3%	11	0	11	0.2%	9	0	9	0.2%	34	0	34	0.2%
おぼれ	0	0	0	0.0%	1	0	1	0.0%	2	0	2	0.0%	3	0	3	0.0%
高温・低温物との接触	23	3	26	0.5%	33	3	36	0.8%	43	2	45	0.9%	99	8	107	0.7%
有害物との接触	19	0	19	0.4%	27	0	27	0.6%	30	0	30	0.6%	76	0	76	0.5%
爆発	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	1	0	1	0.0%	1	0	1	0.0%
火災	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	1	0	1	0.0%	1	0	1	0.0%
交通事故（道路）	52	254	306	6.4%	35	225	260	5.6%	51	221	272	5.5%	138	700	838	5.8%
交通事故（その他）	17	17	34	0.7%	6	14	20	0.4%	12	7	19	0.4%	35	38	73	0.5%
動作の反動・無理な動作等	221	4	225	4.7%	161	11	172	3.7%	169	7	176	3.6%	551	22	573	4.0%
蜂・犬・蛇に刺され、噛まれ	898	2	900	19.0%	929	2	931	19.9%	1,127	3	1,130	22.9%	2,954	7	2,961	20.6%
その他	265	15	280	5.9%	242	10	252	5.4%	259	14	273	5.5%	766	39	805	5.6%
計	4,011	738	4,749	100.0%	3,933	746	4,679	100.0%	4,238	704	4,942	100.0%	12,182	2,188	14,370	100.0%

令和7年度 都道府県別 傷害保険事故状況

事故の型 NO.	都道府県	転倒	蜂・犬・蛇に 刺され、噛まれ	墜落 ・転落	切れ こすれ	交通事故 (道路)	その他	合計	会員数/事故件数		
									会員数	事故件数 /会員数	順位
1	北海道	35	31	8	6	3	5	101	15,608	0.647	31
2	青森県	8	25	8	6	1	7	56	6,429	0.871	20
3	岩手県	3	31	4	4	1	3	52	5,929	0.877	19
4	宮城県	20	69	9	10	3	23	152	12,433	1.223	6
5	秋田県	6	16	5	2	0	3	37	7,057	0.524	40
6	山形県	13	28	9	7	1	9	71	8,869	0.801	23
7	福島県	26	24	5	8	1	8	85	12,172	0.698	28
8	茨城県	29	46	11	8	0	12	119	14,642	0.813	22
9	栃木県	18	29	9	5	5	9	79	8,898	0.888	18
10	群馬県	19	35	11	5	5	3	93	9,016	1.031	14
11	埼玉県	111	63	24	17	10	20	282	44,330	0.636	35
12	千葉県	52	31	17	20	6	17	167	21,607	0.773	25
13	東京都	283	35	42	20	122	64	649	82,272	0.789	24
14	神奈川県	50	35	22	12	3	12	157	36,372	0.432	47
15	新潟県	35	34	9	9	1	15	106	19,205	0.552	39
16	富山県	23	22	8	9	2	3	74	7,132	1.038	13
17	石川県	12	29	7	13	4	4	88	9,044	0.973	15
18	福井県	13	18	4	2	5	0	50	7,831	0.638	33
19	山梨県	12	8	2	5	1	4	39	4,190	0.931	17
20	長野県	22	15	12	5	5	6	71	14,912	0.476	42
21	岐阜県	35	45	17	12	3	6	133	12,554	1.059	11
22	静岡県	56	48	15	20	4	9	165	20,191	0.817	21
23	愛知県	89	33	34	13	7	8	210	35,704	0.588	38
24	三重県	33	25	12	10	7	8	105	9,881	1.063	10
25	滋賀県	21	14	7	2	3	7	62	13,195	0.470	43
26	京都府	35	9	6	9	5	11	92	14,252	0.646	32
27	大阪府	96	8	29	13	16	12	197	44,831	0.439	46
28	兵庫県	84	33	17	17	11	22	212	34,243	0.619	36
29	奈良県	34	14	14	10	7	14	106	7,548	1.404	2
30	和歌山県	16	15	8	7	2	6	59	5,651	1.044	12
31	鳥取県	9	13	1	4	1	0	30	3,172	0.946	16
32	島根県	6	10	3	6	0	4	33	4,483	0.736	27
33	岡山県	16	32	11	13	1	9	90	7,897	1.140	7
34	広島県	23	29	13	10	2	6	98	12,764	0.768	26
35	山口県	12	8	7	5	0	6	40	8,571	0.467	44
36	徳島県	8	9	2	1	1	4	26	4,390	0.592	37
37	香川県	18	12	13	9	1	6	68	6,324	1.075	8
38	愛媛県	14	7	4	4	0	4	35	6,888	0.508	41
39	高知県	11	22	6	9	1	6	63	4,530	1.391	3
40	福岡県	50	27	19	21	8	8	149	23,427	0.636	35
41	佐賀県	15	28	8	9	1	6	73	3,523	2.072	1
42	長崎県	13	11	14	9	3	1	56	5,233	1.070	9
43	熊本県	25	8	7	9	2	7	66	9,833	0.671	29
44	大分県	13	12	10	3	3	14	64	4,981	1.285	5
45	宮崎県	21	17	5	11	3	3	68	4,983	1.365	4
46	鹿児島県	25	16	10	9	3	12	88	13,218	0.666	30
47	沖縄県	11	1	3	2	1	3	26	5,637	0.461	45
合計		1,579	1,130	521	420	275	429	4,942	675,852	0.731	

資料出所:全シ協 統計年報

「安全はすべてに優先する」

会員さんと役職員が一丸となって、
シルバー業界の事故撲滅に取り組んでいきましょう！





重篤事故
死亡又は6ヶ月以上の入院

2件(死亡1件)

1ヶ月～6ヶ月未満の
入院及び後遺障害の事故

23件

1 重 篤 事 故

6月は**2件**の**重篤事故報告**があり、その内**死亡事故報告が1件**ありました。

内訳は、就業中、就業途上の事故が各1件で、就業中は死亡事故、就業途上は6ヶ月以上の入院となっています。6月までの累計でみると、前年度同月と比べて3件の減少、就業中・就業途上別では就業中の事故が3件の減少、就業途上の事故は同数となっています。

就業中の重篤事故の1件は今回も「植木・樹木の剪定等」における「墜落・転落」による事故で、保護帽・墜落制止用器具(安全带)ともに着用されていませんでした。転落したところはコンクリートの道路で頭部外傷により事故の翌日に亡くられました。何度も申し上げていますが、「頭を守る」ことは「命を守る」ことに繋がります。保護帽は顎紐をしっかりと固定し、必ず着用するようにしてください。また、植木剪定作業はできるだけ地上作業で行い、脚立を使用する作業は、安定した場所に設置し、常時保護帽・安全带を使用してください。なお、事故が発生してしまった際に迅速な対応が取れるよう、屋外・屋内問わず会員が災害等に遭った場合に発見されにくい就業場所においては、複数人で作業を行い、お互いが視認できる位置で作業をするようにしてください。

「このくらい」「もう少しだから」「今まで何ごともなかったから」、この3つの「禁句」を使ってしまういませんか。安全就業基準や交通ルールの遵守はもちろんのこと、予測される危険を甘く見ず、安全に対しては自分自身に厳しく向き合ってください。

表1 6月報告分までの累計

	令和8年度累計					前年度(令和7年)同月 累計				
	件数	事故の程度		性別		件数	事故の程度		性別	
		死亡	入院				死亡	入院	男性	女性
就業中	4(1)	4(1)	0(0)	4(1)	0(0)	7	3	4	6	1
就業途上	2(1)	0(0)	2(1)	1(0)	1(1)	2	0	2	0	2
計	6(2)	4(1)	2(1)	5(1)	1(1)	9	3	6	6	3

※()は当月報告分

表2 6月報告分内容

No.	性別等	区分等	事故の状況	安全帽	安全带	交通手段
5	男性 82歳	就業中 (死亡)	3名で一軒家の剪定作業中、家を囲っているブロック塀に脚立を立てかけ剪定作業中に転落した。ヘルメット・安全带未着用	×	×	—
6	女性 76歳	途上 (入院)	就業先へ向かう途中、自転車で直進して走っていたところ、T字路の交差点で右側から走ってきた自転車と接触して転倒	—	—	自転車